

---

# 狂氣～私の愛した道化師へ～

やすのすけ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狂氣～私の愛した道化師へ～

### 【Zコード】

Z86631

### 【作者名】

やすのすけ

### 【あらすじ】

いろいろなことに關して、言いたかつた事です。  
さて、何でしょう？

## 狂氣

「私の愛した道化師へ」

私は死んでいる

それ程明らかな事は無いし、また、それ程否定し難い事も無い  
そしてまた、彼もこの世にはいない

元々この世に存在し得るものでは無かつたのだ

何処で道を踏み外してしまったのだろうか

私は、一つ正しい道を選んでしまっていた様だ

私は間違っていた

彼とは永遠に離れる事になってしまった

私は死んでいる

ああそうだ

何とでも言うが良い

私は生きてなどいないし、生きていた覚えも無い  
また生きたいとも思っていない

他人に何を言われようと構いはしない

私は死んでいる

ああその通りだ

それがどうしたと言うのだ

私は生まれながらにして異端者だった

私の周りに私は一人もいなかつた

それはその時別に苦とは思わなかつたし、どうしようとも思  
わなかつた

そんな事などどうでも良いのだ

唯生きているだけのモノを眺めている事には必要無かつたからだ

私は私以外といつ全ての中で生まれ、育ち、観察してきた  
他と言うモノのする事など容易に想像がついた

…要するに、私と違う事であるのだ

私はその中で埋れ、潰されて行く事を、無意識に選んでいた  
そつすべきだと思つ事も無かつた

私以外は平凡である事を誇りとしていた

私はそれ以外の答を知らず、また、見つけよつとはしないな  
かつた

だから私は平凡に行き朽ち果てるのが最良であると信じていた

私は私以外の全てを嫌悪していた

私以外は全て敵だと思っていた

彼らは私の芽を摘み取り叩き潰し同じ色に塗り込め溶かし燃  
やし尽す事を使命としていた

私はそれに気付いていた

私は不安だった

私は彼らから必死に逃げていた

私は私以外の全てを受け容れていた

私以外にのモノなら全て無条件で善きモノだと思つていた

彼らは私を矯正しようとしていた

私はそれに気付かない振りをしていた

私は何の不安も抱かず、彼らの一部にならうとしていた

私は老いた

私の望み通り、愚かに、そして幼稚に老いた  
朽ち果てるのを待っていた  
それこそが人生であり、人間であり、何より私であると信じ  
ていた

私は私以外の全てから逃れようと必死だつた  
私は仮面を被つた

仮面の中ではどんな顔をする事もできた

私は仮面の中では、彼らを騙し、欺き、嘲い、  
そして、殺していた

私は私以外と混じつた

それが唯一の身を守る術だと思った

仮面は私以外の全てと同化した

私は仮面の中で涙を流した

或る時私は私でない異端者を見た

彼は私以外という全てに囮まれ、押し付けられていた

私は彼を見た

彼も私を見た

彼は私を見抜いた

私は彼に歩み寄つた

私以外の全ては私を異端だと言つた

私は彼を見た

彼は何も言わなかつた

彼は私を見抜いた

私は彼の前では仮面に依存したくなかった  
私の仮面は彼の前では役に立たなかつた

私は仮面を外した

私はそうさせる彼が忌々しかつた

彼は私に言った

他の全てに混じる事は罪であるのか、と

他の全てを否定する事は罪であるのか、と

他の全てを受け容れる事は罪であるのか、と

他の全てに私を強要する事は罪であるのか、と

他の全てに私を強要しない事は罪であるのか、と

他の全てに混じろうとしない事は罪であるのか、と

他の全ては私に何を求めるのか、とも

私は怖かった

私は彼に全ての答を用意する事はできなかつた

全ての答を見つけ出した時、彼は必ず私から去つて行くと知つていた

彼は私に言った

お前は愚かである、と

私は彼に言った

それ位知っている、と

ならば何故に立ち上らないのだ？

彼は私を避ける様になつた

彼は私とは違つた

彼は異端者として他の全てと関つた

彼は強いと思つた

彼は私を含む彼以外の全てと違つた答を提示した

或る時彼は他の全てに迫害を受けた

彼は他の全てにとつて脅威だと見なされた

彼は私を見た

私は彼を見なかつた

私にはそれ以外の全てが必要だつた

彼は私から目を反らせた

彼はそこから追い出された

彼は永遠に戻る事は無い

私以外の全てでは言つた

これで安泰が保たれた、と

私は彼がいなくなるとおかしくなつた

私は私以外の全てに言つた

何故彼を追い出したのか、と

私以外の全てでは言つた

彼は我々という全てにとつて脅威だつたのだ、と

彼を追い出した事によって今のこの安泰は保たれているのだ、

と

我々という全てでないモノは全て排除しなければならぬの

だ、とも

私は私以外の全てに言つた

彼を追い出す必要は無かつた、と

お前たちは間違つている、とも

私以外の全てでは言つた

ならばお前が出て行くが良かろう、と

私はそう言われてやつと解つた

私が必要としていたのは全てではない

本当に必要としていたのは彼だつたのだ、と

私は出て行きたかった

しかし出て行けなかつた

私は仮面を被つていたのだ

外気に晒されない私の牙はもうとっくに抜け落ちていたのだ

私はもう昔に戻る事はできなかつた

一度抜けた牙はもう生えない

私は私以外の全てと同化する事を条件にそこに留まつた

私は後悔していた

彼は強くなんか無かつた

牙を残す為の、異端者でいる為の精一杯の虚勢を

私は見抜く事ができなかつたのだ

私は死んでいる

それ程明らかな事は無いし、また、それ程否定し難い事も無い

そしてまた、彼もこの世にはいない

元々この世に存在し得るものでは無かつたのだ

私は死んでいる

ああそうだ

何とでも言つが良い

私は生きてなどいなし、生きていた覚えも無い

また生きたいとも思つていてない

他人に何を言われようと構いはしない

私は死んでいる

ああその通りだ

それがどうしたと言うのだ

私は死んでいるのだ

死んで  
なお

彼に会いたいと

思つて いる

会つて

彼に

言いたかつた

、

・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8663i/>

---

狂気～私の愛した道化師へ～

2010年10月13日16時18分発行